

第 270 回福島県災害対策本部員会議
第 11 回福島県東日本大震災復旧・復興本部会議

○日 時：平成 24 年 6 月 18 日（月） 9：55～10：25

○場 所：本庁舎 2 階 第一特別委員会室

○内 容

※災害対策本部員会議・・・省略

(1) 復興計画の進行管理について

企画調整部長：別紙により説明

復興計画の進行管理の第一ステップとして、平成 23 年度の実施結果及び今年度の実施予定を冊子等に取りまとめたので、報告します。

まず、資料 1-1 重点プロジェクトの進捗状況調書について、プロジェクトごとにプロジェクトの目指す姿、平成 23 年度事業の取組と結果、今年度の実施予定の主な事業を取りまとめている。

次に、資料 1-2 は、本県の復興の姿をわかりやすく公表するために作成した資料となっており、プロジェクトごとに各部局から提供された写真、図を交え、具体的なイメージが伝えられるように作成している。

なお、資料については、追って県の HP に掲載をして公表することにしてはいる。本県の復興の姿を伝える手段として皆様にも活用していただきたい。

復興計画の進行管理については、第二ステップとして、9 月を目標に、取組の課題と今後の対応方針について取りまとめていきたいと考えている。その際には、県の第三者機関である「県復興計画評価検討委員会」で評価等いただいたうえで、新たに必要となる主要事業等の追加や修正を図って、来年度予算等へ反映していきたいと考えている。

(2) 「研究開発拠点整備（県等整備分）の状況」について

企画調整部長

研究開発の拠点整備については、雇用の創出、関連企業の集積等を通じて本県の復興に大きく関わってくる重要な取組であり、6 月 13 日に行った緊急要望にも盛り込まれている。拠点整備に向けた取組を今後さらに推進していくためには、庁内の連携が不可欠であるため、十分な情報共有を図る必要がある。

生活環境部長

環境創造センターの検討状況について、これまで専門家による検討委員会を 2 回、その下にぶら下がる部会を 3 回開催し、基本理念と必要な機能について概ね案が固まっている。基本理念は、二つのフェーズに分けて整理しており、環境の回復から環境の創造に期間の経過とともにシフトしていく。必要な機能については、モニタリング、調査研究、情報発信、教育・研修・交流の 4 点から整理している。

今後は、規模構造、運営方法、誘致連携すべき期間、設置場所を検討し、基本構想をとりまとめる。

要望としては、国に対して必要な経費を十分に確保すること、国際機関の誘致を連携して取り組むことについて要望している。

農林水産部長

農林水産再生研究センターについて、農林水産省から県が設置する試験研究機関への補助は困難との話があったため、高線量地域における農林水産業どうやっていくかという課題を国と共有し、国の研究機関の出先の設置や国と県との共同設置等のについても検討をして参りたい。

保健福祉部長

放射線医学県民健康管理センターについて、将来にわたって県民の健康を守るために県立医科大学に放射線医学に係る最先端の研究、診療拠点を整備する構想である。

現状については、基本構想の検討に着手しており、7月には中間報告、秋までには策定できる見通しとなっている。

また、センターの基本的な考え方、課題等について専門的な見地から助言を受けるために、有識者の検討委員会を設置し、7月までに3回程度開催する予定である。

拠点の整備に先行し、腫瘍、脳疾患、心疾患等の早期診断に有用な最先端画像診断装置を出来るだけ早く整備するため、6月議会に予算をお願いしている。

今後、基本構想を策定し、教育研究の部分等が明確になれば、再度国に対し要望していきたいと考えている。

商工労働部長

医療機器の開発センターについて、既に医療機器開発等のファンドは予算化されているが、開発支援、安全性評価、薬事法に基づいた製品化支援、人材育成分野等を総合的に合わせ持つ拠点として、国に対し構想をお願いしているところである。

現状としては、基本構想を策定中であり、4月に第1回の有識者会議を開き、7月末までに6回程度開催する予定である。国からは、既存拠点との役割分担、連携についての型をうまく書き上げてほしいとの話もあるため、この有識者会議で検討していきたいと考えている。

洋上風力発電研究センターについて、現在、福島沖での実証実験の作業を進めている。実証実験後の産業の集積を目指し、基本構想を検討している。この中で、具体的に研究テーマを示してほしいと国から言われているため、どのようなものが研究テーマとなり得るのか精査して詰めていきたいと考えている。

内堀副知事

各部からそれぞれの拠点の重要性を話していただいたが、福島が復興していくためにこれらの拠点をしっかりと整備していくことは、県の重要政策となる。引き続きしっかりと対応をお願いしたい。

知事

ご苦労様。今それぞれ話合った件は、13日に緊急要望として政府をお願いしてきたところである。早速、国交省から避難者の方の高速道路の利用についていい回答をいただいた。もう一つ、公共事業において従業員の宿舍の分も考えた予算執行をしていかななくてはいけない、といった話も平野大臣からあった。

復興計画の進行管理についても、各部局長はしっかりと管理をしてもらいたい。研究開発拠点整備については、復興構想会議の時から福島県の構想ということで話が上がっているものであることから、福島県の復興の大きな基礎になるという認識をしっかりと持って進めていただきたい。